

新版

しんぱん

指導要文集

しどうようもんしゅう

第一章

だいいっしょう

信心の基本

しんじん

きほん

いの
祈り

ほけきよう

法華經をもつていのらん祈りは必ず祈りとなるべし。

祈

いの

かなら

いの

きとうしよう

035 祈禱抄

祈いの
582 ページ 9 行

ほけきよう ぎようじゃ いの いの ひび おと おう

法華經の行者の祈る祈りは、響きの音に応ずるがごと

かげ からだ 添

し。影の体にそえるがごとし。すめる水に月のうつるが

澄 みず つき 映

ほうしよ みず 招

ごとし。方諸の水をまねくがごとし。磁石の鉄をすうが

じしやく くるがね 吸

こはく ちり 取

ごとし。琥珀の塵をとるがごとし。

きとうしよう

(035 祈禱抄

いの 祈り 587 ページー5 行)

だいち 差

外

おおぞら

繫

もの

大地はささはずるとも、虚空をつなぐ者はありません、

しお 満 干

ひ にし い

潮のみちひぬことはありとも、日は西より出ずるとも、

ほけきよう ぎようじゃ いの 叶

法華經の行者の祈りのかなわぬことはあるべからず。

(035 祈禱抄

きとうしよう

いの 祈り 592 ページ 15 行)

だいち ゆび

こくう

むす

大地を指さしてはずれることがあつたとしても、虚空をつないで結

もの

かいすい み しお ひ しお

びつける者がいたとしても、また海水の満ち潮、引き潮がなくなる

たいよう にし のぼ

ことがあつたとしても、太陽が西から昇るようなことがあつたとし

ほけきよう ぎようじゃ いの かな

ても、法華經の行者の祈りが叶わないということはありませんので

す。

よき火打ちと、よき石のかどと、よきほくちと、この三つ
寄り合つて火を用いるなり。祈りもまたかくのごとし。よ
き師と、よき檀那と、よき法と、この三つ寄り合つて祈り
を成就し、国土の大難をも払うべきものなり。

048 法華初心成仏抄

いの 祈り 695 ページ 3 行

よい火打ち金とよい石の角とよいほくちの三つがそろつて、はじ
めて火を出して用いることができるように、祈りもまた同様です。
よい師匠とよい信者とよい法と、この三つが寄りあつたとき祈りも

かない、
一いつこく国にふりかかるおお大きな難をもなん払うはらことができるのです。

脳 破 身 責 祈
なずきをわり、みをせめて、いのりてみ候わん。ただ

先

さきのいのりとおぼしめせ。これより後は、のちのちのことを

おん 固

そうら

よくよく御かため候え。

おおあまごぜんごへんじ

106 大尼御前御返事

いの
祈り
1224
ページー9行

それについて、いのちはつるかめのごとく、さいわいは
つき命勝鶴潮亀満
月のまさりしおのみつがごとくとこそ、法華経にはいのり
そら
まいらせ候え。

143 富木殿女房尼御前御書

ときどののにようぼうあまごぜんごしよ

いの
祈り
1342 ページ 17 行

いかなる世よの乱れにも各々おのおのをば法華經・十羅刹ほけきよう じゅうらせつ助け給え
と、湿しめれる木きより火ひを出だし、乾かわける土つちより水みずを儲もうけんが
ごとく、強盛ごうじように申もうすなり。

(196 呵責かしやく謗法滅罪抄ぼうぼうめつざいしよう)

いの 祈り 1539 ページ 4 行

どのような世よの乱れにも、あなた方がたを法華經・十羅刹ほけきよう じゅうらせつよ助けてく
ださい。と湿しめっている木きより火ひを出し、乾かわいた土つちより水みずを出すよう
な強盛ごうじような信心しんじんで祈いのっています。

御^{おん}いのりの叶^{かな}い候^{そうら}わざらんは、弓^{ゆみ}のつよくしてつるよわ^強
く、太刀^{たち}・つるぎにてつかう人の臆^{おそ}病^{びよう}なるようにて候^{そうろう}
べし。あえて法華經^{ほけきよう}の御^{おん}とがにては候^{そうろう}べからず。

(200 王舎城事

いの
祈^{いの}り
1547 ページ 3 行

いの
祈^{いの}りが叶^{かな}わないというのは、ちようど弓^{ゆみ}が強いのに弦^{つよ}が弱^{つる}く、
太刀^{たち}や劔^{つるぎ}があつても使う人^{つか}が臆^{ひと}病^{おそ}であるよ^{おく}うなものです。けつし
て法華經^{ほけきよう}に力^{ちから}がないためではありません。

こうべ 振 髪 揺 ころ 働 み 動 おおかせふ

頭をふればかみゆるぐ。心はたらけば身うごく。大風吹

そうもく 静 だいち 動 たいかい 騒

けば草木しずかならず。大地うごけば大海さわがし。

きようしゆしやくそん たてまつ そうもく

教主釈尊をうごかし奉れば、ゆるがぬ草木やあるべ

みず

き、さわがぬ水やあるべき。

にちげんによぞうりゆうしやかぶつくようじ

(216 日眼女造立釈迦仏供養事

いの

祈り 1610 ページ 4 行)

あたま かみ うづ ころ はたら しんたい したが

頭をふれば髪がゆれ動き、心が働けば身体もそれに従つて

うご おおかせ ふ くさ き ゆ だいち うご うみ あ

動き、大風が吹けば草や木が揺れ、大地が動けば海も荒れるよう

きようしゆしやくそん ごほんぞん ゆ うご しんじん

に、教主釈尊（御本尊）を揺り動かしていくような信心をすれ

ゆ

くさき

みず

ば、揺れない草木がなく、さわがない水がありません。（そ

じしん

か

ちから

はつき

のように、自身も変わり、力も発揮していけるようになるのです）

にちれん 祈

もう

ふしん

濡

火口

いかに日蓮いのり申すとも、不信ならば、ぬれたるほくち

ひ 打掛

励

に火をうちかくるがごとくなるべし。はげみをなして

ごうじよう しんりき 出

たも

強盛に信力をいだし給うべし。

(220 四条金吾殿御返事 (法華經兵法の事)

しじようきんごどのごへんじ

ほけきようへいほう こと

いの

祈り 1623 ページ 7 行

にちれん

しんぱい

ごほんぞん いの

日蓮があなたのことを心配してどんなに御本尊に祈ったとして

しんじん

ぬ ほくち ひ

も、あなたに信心がなければ、濡れた火口に火をつけようとしてもつ

むだ

かないように、無駄なことになっていきます。ですから、なおいつ

じぶんじしん はげ

つよ しんじん ちから だ

そう自分自身を励まして、強い信心の力を出していきなさい。

相 構

ごしんじん い

ごほんぞん きねん

たま

あいかまえて御信心を出だし、この御本尊に祈念せしめ給

なにごと じゅうじゅ

え。何事が成就せざるべき。

(225 経王殿御返事
きょうおうどのごへんじ)

いの
祈り
1633
ページー9行

おのおのは随分の日蓮がずいぶんかとうどなり。しかるに、脳なずき

をく砕だきていのるに、いままでし祈のなきは、この中験に

心のひるがこころえる人の有るとおぼえ候ぞ。翻ひとあ覚そうろう

(229 弁殿御消息 (師弟同心の祈りの事))

いの祈り 1637 ページ 12 行

あなた方は日蓮のよい味方です。ところが、がた脳髓をにちれん砕くようにしみかた

て祈ったのに、今までしいのるしがない (結果がでない) のは、このなかいまに

に心こころをひるがえした人 (不信の人) がいるからだと思われまひとす。ふしんおも

きとう

けんきけんおう

けんきみようおう

みようきみようおう

みようき

祈禱においては顕祈顕応・顕祈冥応・冥祈冥応・冥祈

けんおう

きとうあ

かんよう

きよう

しんじん

顕応の祈禱有りといえども、ただ肝要は、この経の信心

いた

たま

そうら

げんとう

しよがん

まんぞく

そうろう

を致し給い候わば、現当の所願、満足あるべく候。

どうみようぜんもんごしよ

(252 道妙禅門御書

いの

祈り

1713

ページー11行)

きとう

けんきけんおう

けんきみようおう

みようきみようおう

みようきけんおう

祈祷には顕祈顕応・顕祈冥応・冥祈冥応・冥祈顕応という

よんしゆるい

きとう

たいせつ

四種類の祈祷がありますが、そこでもつとも大切なことは、この

きよう

ごほんぞん

たい

しんじん

と

げんざい

みらい

ねが

経（御本尊）に対する信心を通すならば、現在と未来に願いをか

なえることができるということです。

かな かな ごしんじん そうろう まった にちれん 失
叶い叶わぬは御信心により 候べし。 全く日蓮がとがに
あらず。

（413 日巖尼御前御返事
にちごんあまごぜんごへんじ）

いの 祈り 2135 ページ 8 行

ねが かな ねが かな
あなたの願いが叶うか叶わないかは、あなたの御信心によるので
す。（願いが叶わなくても）まったく日蓮の失ではありません。
ねが かな にちれん とが

しんじんごうじよう

よねんな

なんみようほうれんげきよう

とな

信心強盛にして、ただ余念無く南無妙法蓮華經と唱え

たつまつ

ぼんしんそくぶつしん

てんしんどくろう

そくしんじようぶつ

奉れば、凡身即仏身なり。これを天真独朗の即身成仏

な

と名づく。

(458

ほんいんみようしよう
本因妙抄

いの
祈り

2223

ページー3行